

私の主張「老後をどう生きるか

次代を担う子どもたちと農に係って」

佐久市老人クラブ連合会 荻原徳雄さん

私は、長野県農業会議の役員を長くやってきました。その中で遊休荒廃農地について考えてきました。わが地域でもなんとかしたいと、10年前に6人で佐久楽農倶楽部を立ち上げました。

主に菜の花を栽培して菜種油を絞っていますが、大豆や、そば、麦なども栽培しています。この活動の中で、地元の小学生との交流も10年ほど続いています。

2年生は菜の花畑でふるさと学習、そして麦踏を。3年生は、じゃがいも蒔きと収穫です。掘りたてのじゃがいもをまるごと蒸かして、その場でおやつに食べてもらい、収穫の喜びをともに味わっています。そして10月には、じゃがいもや小麦粉を使い菜種油で揚げる、コロッケバーガー作りを親子でやります。こうした体験学習を通して、農業の良さを伝えていくのも、われわれ高齢者の役割と思います。

また、あるクラスへは、畑の先生として年間を通して野菜作りの応援をしています。3年生のとき「大きくなったら畑の先生になりたい」と作文を書いた子が、6年生のときには低学年の仲間に、知っていることを楽しそうに教えてやっています。農作業を通じて、ものをづくり皆に満足してもらうことが、本人の成長に非常に良かったと、先生方にも喜ばれました。

3月に麦踏に来た2年生に「麦は踏まれて強くなり、いい麦が出来る」と教えてやると、「僕も、踏まれても踏まれても立ち上がれる人間になりたい」と作文に書いた子がいて、本当に感動しました。

これからも、一人ひとりの子どもの成長を願いながら、楽しくかかわって行きたいと思います。

菜種油は自給率が1%にも達せず、小麦も12%で、ほとんどが外国産の遺伝子組換えです。TPPでいろんなものが自由化になり、取り組むべき課題が多くあります。

子ども達やお母さんに、農業の良さや大切さ、食の安全性というものを、どうしても、伝えていく必要があると思います。これは私の農業者としての生きがいになっています。村を守り郷土を発展させたいと強い思いでやっています。